

JATLaC 言語文化教育学会

2018年度 前期大会

日時 : 2018年7月14日(土) 10時 ~ 18時

会場 : 早稲田大学 早稲田キャンパス 16号館 6階 606教室

参加費 : 一般 1,000円 (当日受付にて)

/ 会員・予稿集を必要としない学生:無料 (受付で学生証をご提示ください)

基調講演:10:30-12:00

松本 辰雄 氏

(元 東邦大学付属東邦中学校・高等学校教員)

「外国人児童生徒への日本語指導

—問題点と解決策—」

シンポジウム :13:30-17:30

「内なる国際化の一例

—外国人児童・生徒の問題—」

〔事前の大会参加申込みは不要です。どなたでもご参加いただけます。〕

詳しい情報は学会ホームページをご覧ください("JATLaC"で検索!) : <http://www.waseda.jp/assoc-JATLaC/>

問い合わせ先:言語文化教育学会事務局 (E-メール:jatlac@gol.com)

言語文化教育学会2018年度前期大会
7月14日(土) 10時～18時
早稲田大学早稲田キャンパス16号館606教室

●基調講演「外国人児童生徒への日本語指導：問題点と解決策」

10:30 – 12:00

講演者

元東邦大学付属東邦中学校・高等学校教員

松本辰雄（まつもと たつお）

青山学院大学英文科卒業。研究テーマは日英語比較。青山学院大学国際部および国際交流基金にて、「外国人に対する日本語教授法」講座修了。退職後、千葉県八千代市のボランティア組織で、中南米および中国からの日系人中学生の学習支援（日本語、小論文、面接、英語等）。ルーマニアでボランティアとして、日本語指導。著書は「あえて問う、英語教育の原点とは」（共著、開拓社）

●シンポジウム「内なる国際化の一例：外国人児童・生徒の問題」

13:30 – 17:30

パネリスト

東京国際大学 言語コミュニケーション学部教授

川村よし子（かわむら よしこ）

津田塾大学卒業。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。日本語読解学習支援システム『リーディング・チュウ太』の開発者。専門・研究テーマは日本語教育ならびにコンピュータを用いた言語教育。2000年10月から2002年3月までウィーン大学客員教授として日本語教育を担当し、ヨーロッパ各地で「インターネットを活用した読解教育」に関するセミナーを開催。帰国後は国際交流基金、国立国語研究所等の依頼でワークショップを開催。その後、辞書ツール多言語化プロジェクトを開始し、2010年から多言語版の『チュウ太のWeb辞書』を公開。現在は、共生社会実現のための支援として『チュウ太のやさしくなれ』の開発を進めている。主な著書：Computer Technology and Japanese Language Education（共著）、日仏会話辞典『ディプロスフランス語会話マニュアル』（共著）、『日本語教育のためのインターネット活用術 チュウ太の虎の巻』など。

台東区立黒門小学校 統括校長

千木良康志（ちぎら やすし）

早稲田大学卒業。昭和57年より各地の小学校で教諭、平成9年より教頭、平成17年より校長を務めたあと、江東区教育委員会学校教育指導室長兼東京都教育委員会指導部主任（平成19年～23年）を経て平成23年より現職。その他、東京都小学校体育研究会常任理事、全国連合小学校長会常任理事、東京都公立小学校長会副会長などを歴任。所属学会は臨床教科教

育学会、早稲田大学教師教育研究所（プロジェクト研究所）、東京都小学校体育研究会である。

ノースカロライナ大学 客員非常勤講師

福谷正子（ふくや しょうこ）

日本語教師。日本国際協力センター（JICE）の日本語非常勤講師も務める。大正大学カウンセリング研究所にて「カウンセリング技能修士」を習得後、埼玉県児童相談所、心理学研修所などで、「国際児」「識字障碍児」等の言語および文化的アイデンティティに問題がある児童の学習支援活動を担当。娘の教育を通して、米国のESL、日本語補習校、日本における帰国子女財団の外国語保持教育を観察。また、米国におけるheritage languageとしてのヒンドゥー・ウルドゥー語の授業の実態について、さらに難民子女の帰属意識と地方自治体の対応などに関する知見も有する。

新宿区立戸塚第一小学校 副校長

安田真理（やすだ まり）

東京学芸大学卒業。昭和61年より都内小学校で教諭、平成26年より新宿区立早稲田小学校副校長を経て、平成29年より現職。小学校教育現場で日本語指導を必要とする外国人児童を数多く受け入れてきた。

東京国際大学言語コミュニケーション学部 2年生

岡崎成虎（おかざき しげとら）

日本人の父、メキシコ人の母のもと、シンガポールで生まれる。4歳のときにシカゴへ移り、双葉会シカゴ日本語学校で日本の学校の内容と類似した授業を受ける。11歳のときに東京に移り、足立区立綾瀬小学校に入る。自らの経験より、板書による日本語文法指導よりも会話主体の授業の有用性を訴えている。

司会

早稲田大学 国際教養学部教授

生井健一（なまい けんいち）